特集

変化と挑戦を力に、未来を共に動かす。

Co-create the future.



創薬を取り巻く環境は、医療ニーズの多様化や地政学的リスクの高まりなどにより、大きく変化しています。

こうした変化の中で、事業戦略本部は、会員会社・委員会・事務局をつなぐ横断的なハブとして、戦略を描き、一体で動き、持続的な価値創出に向けた取り組みを進めています。

本特集では、その中心的な役割を担い、議論を重ねてきた運営幹事のみなさんに、これまでの取り組みや未来への想いをお聞きしました。

産業ビジョン実現に向けたワークショップ

外部環境や組織の課題を踏まえ、多様な視点で議論し、重点アジェンダの特定と戦略実行の推進につなげます。

3つのインプット

- **外部環境の変化** — グローバル情勢・産業構造・競争環境の変化
- **最新の政策動向** — 国内外の政策・制度の動向
- **各組織の課題** — 会員会社・委員会・事務局それぞれの課題

事業戦略本部

ワークショップを実施

多様な視点で議論し、戦略の方向性を検討



重点アジェンダの特定 戦略実行へ

外部環境や組織課題を踏まえ、取り組むべき重点アジェンダを特定し、戦略実行を推進します。

Featured Content

PART 1 幹事の想い …… P 8

PART 2 グループリーダーの想い …… P 12

PART 3 メンバーの想い …… P 15

事業戦略本部の運営幹事の皆さんの想いをお聞きしました。

対話と共創で、信頼と共感の輪を広げる

事業戦略本部の活動を通じて強く感じるのは、創薬を取り巻く環境の変化がこれまでになく速く、大きくなっていることです。医療ニーズの多様化に加え、地政学的リスクの高まりなどにより、製薬産業には新たな価値創出と持続可能な医療への貢献がこれまで以上に求められています。

こうした課題は、一社や一組織だけで解決できるものではありません。多様なステークホルダーとの対話と共創を通じて、社会全体で解決策を生み出していくことが重要だと考えています。

事業戦略本部には、業界の枠を越えた連携を促進し、将来に向けた方向性を示す役割が期待されています。私自身も、対外関係の立場から製薬産業がもつ社会的価値やイノベーションの意義を積極的に発信し、信頼と共感の輪を広げることに挑戦したいと思います。多様な仲間との協働を通じて、患者さんにより良い未来を届けるための環境づくりに貢献していきたいと考えています。

アステラス製薬株式会社
担当役員 渉外部長
熊谷 裕輔さん



日本を「世界から選ばれる創薬の地」へ

世界はいま、地政学的な緊張、科学技術の飛躍的進歩、社会保障制度の持続可能性など、大きな転換点にあります。製薬産業を取り巻く環境も激変し、今までの延長線では未来を描けない時代を迎えています。私の信条は、チャーチルの “Kites rise highest against the wind – not with it.” です。ピンチをチャンスと捉え、自身が成長して挑戦する絶好の機会が到来していると感じています。事業戦略本部での活動を通じて強く感じるのは、もはや一社、一業界だけで未来を創ることはできないということです。企業や業界の垣根を越え、政府、アカデミア、スタートアップ、そして患者さん・国民のみなさんと知恵を持ち寄り、「競争」ではなく「共創」する。その先に、日本の創薬力を再び世界に誇れる未来があると信じています。変化を待つのではなく、自ら変化を作り出す。強烈な当事者意識をもって一歩踏み出す。皆の挑戦を結集して、「日本を世界から選ばれる創薬の地」にする。私の挑戦は、「その未来をみなさんとともに創る」ことです。

エーザイ株式会社
上席執行役員 業界・医療 政策担当
赤名 正臣さん

日本と世界をつなぎ、変化を生み出す

私が事業戦略本部の活動を通じて感じる最大の変化は、創薬が日本の経済成長と健康医療安全保障を支える重要な戦略分野として認識されつつあることです。製薬産業を取り巻く環境はかつてないスピードで変化していますが、その変化は私たちに新たな可能性ももたらしています。

製薬協が一般社団法人として新たな一歩を踏み出した今、私たちに求められているのは、変化に対応するだけでなく、自ら変化を生み出していくことだと感じています。そのためには、業界として課題を提起するだけでなく、患者さん・市民、行政、アカデミア、企業など多様なステークホルダーとともに解決策を構想し、実行していく姿勢が重要です。

事業戦略本部では、国内外の政策や市場環境を俯瞰しながら、委員会や企業の垣根を越えて製薬協全体として戦略を考える機会が増えています。私自身も、多様な立場の方々との対話や共創の重要性を改めて実感しています。今後も、日本と世界をつなぎ、創薬イノベーションを必要とする人々へ届ける環境づくりに貢献するとともに、社会に必要な変化を生み出す製薬協の実現に向けて挑戦を続けていきたいと考えています。

塩野義製薬株式会社
渉外部長
田村 典朗さん



「透明性」と「一体感」で創薬の価値を社会へ

業界を取り巻く環境は、大きな変化の時代を迎えています。日本成長戦略の重点分野として創薬・バイオ産業への期待が高まり、国も国内創薬エコシステムの構築・強化を積極的に後押ししています。一方で、医療財政をめぐる議論や米国の最恵国待遇（MFN）政策、地政学的リスクなど、事業環境の不確実性も増しています。

このような激動の時代だからこそ、製薬協には業界全体の方向性を示し、社会との対話を通じて創薬の価値を発信していく大きな「責任」があると感じています。特に一般社団法人となった今、これまで以上に「透明性」の高い運営、会員会社の「一体感」が求められています。

事業戦略本部は、多様な意見や知見を結び付け、製薬協の内外における「共創」を推進する中核的な存在であるべきです。私自身も幹事の一人として各委員会活動への理解を深め、会員各社との対話を重ねながら、日本の創薬力の強化と患者さんへのさらなる価値提供につながる挑戦に取り組んでいきたいと思います。

住友ファーマ株式会社
上席理事 渉外部長
永野 智一さん

“乗客”から“キャプテン”や“クルー”へ変革を自分事に

変化に向き合うことは簡単ではない

下図は変化への態度を示したものです。伝統的な日本企業では、“海賊”は多くないものの、“乗客”である人が多いそうです。私にも心当たりがあります。

しかし、我々が変わらなければ、ステークホルダーの意識変革はできない

創薬イノベーションが正当に評価される制度への変革に向けて理解を得ていくには、我々自身が、革新的新薬創出への努力をさらに進化させ、また、日本を代表する基幹産業になるという決意とその使命をもって、業界活動を行っていく必要があると思います。

皆で変革の当事者として共創していきたい

日本を名実ともに「創薬の地」とする変革の当事者として共創していくために、変革の目的と自分の担当分野の目標の接合、すなわち、自身がキャプテンやクルーになって挑戦できる領域を見つけて変革を自分事にする意識をもち続けていきたいと考えています。



第一三共株式会社
渉外部長
越後 園子さん



当事者意識と知見を結集し、行動につなげる

事業戦略本部の活動を通じて感じる最大の変化は、製薬協自身が変わろうとしていることです。長年委員会活動に携わる中で、複雑化する課題に対応するには、事務局機能の強化と、組織横断的に課題を捉え行動につなげる機能の充実が不可欠だと感じてきました。事業戦略本部の設置により、長年求められてきた変革が具体的な形で動き始めたことに期待しています。同時に、変革はまだ始まったばかりであり、さらなる進化が必要です。

創薬力向上、健康医療安全保障、国際的な政策競争などの課題は相互に関係し、一企業や一委員会だけで解決できるものではありません。そのためには、多様な立場や意見へのリスペクトを大切にしながら、一人ひとりが当事者意識をもち、知見を結集して行動につなげることが重要です。共創はそのための手段であり、目指すべきは、患者さんに必要な医薬品を届け続け、創薬イノベーションが持続的に生まれる環境を実現することです。私自身も、製薬協の変革を支える一人として責任を果たすとともに、自らも変革の担い手として、創薬イノベーションが持続的に生まれる環境づくりと産業全体の発展につながる取り組みを前に進めていきたいと考えています。

武田薬品工業株式会社
ジャパンファーマビジネスユニット
医療政策・マーケットアクセス統括部 リード
草開　義隆さん



「挑戦」とは、社会の期待に応え続けること

製薬産業は今大きな転換期を迎えています。日本が研究開発、製造・流通、投資回収の場として選ばれ続けるためには、魅力度向上と国際競争力の強化が不可欠です。創薬は単なるコストではなく成長を生み出す未来への投資であり、有事に備える危機管理投資としても位置付けられるようになりました。製薬産業は、国民の命と健康を支え、経済安全保障に貢献し、日本の成長を牽引する基幹産業として期待されています。一方、その役割や価値が国民に十分理解されているでしょうか。私自身、製薬産業に身を置いて34年になりますが、国民と製薬企業との距離は依然として大きいと感じています。私が考える「挑戦」とは、社会の期待に応え続けることにほかなりません。患者さんや国民の声に耳を傾け、相互理解を深めるとともに、その声を政策提言につなげていくことが重要です。製薬協には各社結集による発信力、高い専門性を有する委員会活動、そしてステークホルダーとの共創機会という強みがあります。事業戦略本部は製薬協の司令塔として、製薬協ビジョンの実現に向けた挑戦を先導し、各委員会の挑戦を応援することで、社会から信頼される製薬産業の未来を切り拓いていきたいと思います。

中外製薬株式会社
執行役員 渉外調査担当
藤原 尚也さん

各課題を製薬協全体の成果に結びつける仕組み

委員会が起点となって課題を提起し、事業戦略本部が機会との接続と支援を行い、製薬協全体の成果につなげます。

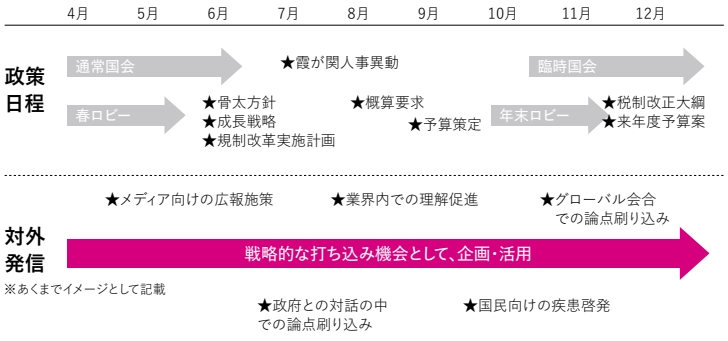
各委員会における課題の提起

○○委員会　○○委員会　○○委員会　○○委員会　○○委員会

製薬協全体の成果につなげる4つのプロセス

01	**委員会からの課題提起**	各委員会が現場の課題を提起
02	**横断課題の整理・優先順位付け**	事業戦略本部が全体の課題を整理し優先順位を設定
03	**運営会議・→ 正副会長会議で審議**	重要課題を審議し製薬協としての方向性を決定
04	**共創（政策提言・対外発信支援）**	政策提言や対外発信を通じて、社会に機会を創出

主な年間スケジュール（例）



One JPMAで生み出す成果

3つのグループが一体で描く、製薬協の「全体戦略」

本部を構成する戦略企画・戦略推進・事業管理の3つのグループを率いるリーダーに、各グループの役割、発足後の手応え、そして各委員会・会員会社との「Co-creation（共創）」への想いを語っていただきました。



製薬協事務局／事業管理グループ
安達 秀樹さん（左端）

中外製薬の研究職出身。製薬協研究開発委員会や産業政策委員会イノベーション推進部会等での活動を通じてイノベーション政策にかかわる。2026年4月に製薬協へ出向し、10月より事業推進部長を拝命している。

武田薬品工業株式会社／戦略企画グループ リード
矢澤 亜紀さん（左から2番目）

武田薬品工業でMR、マーケティング、戦略推進など、営業・事業部門の幅広い業務に携わる。2025年から政策企画を担当し、製薬協の活動に参画。2026年10月から産業政策委員会の副委員長を務める。

中外製薬株式会社／戦略推進グループ リード
中山 直さん（左から3番目）

2009年に中外製薬入社。臨床開発を約12年、経営企画を約2年経験した後、内閣府健康・医療戦略推進事務局に2年間出向。2025年7月渉外調査部に帰任し、製薬協の活動に参画している。

武田薬品工業株式会社／戦略推進グループ リード
御内 寛之さん（右端）

MRとして営業に従事した後、2016年より医療政策部門に所属し、地域医療や疾患政策に関する業務を担当。製薬協の難病・希少疾患タスクフォースにも参画し、治験への患者アクセスや早期診断など、患者さんや医療現場を取り巻く課題解決に取り組んできた。

3つのグループは「1つの流れ」

―3つのグループそれぞれの役割と、現在の注力テーマを教えてください。

矢澤　戦略企画グループの役割は、製薬協の全体戦略の立案です。国内外の環境が大きく変化するなか、外部環境や政策動向を捉えて分析し、製薬協としての戦略につなげていきます。ただ、実際には各グループがそれぞれ個別に取り組むのではなく、3つのグループが横断的に連携しながら、一体となって取り組んでいます。現在は、2027年度の事業戦略について議論を進めています。

中山　戦略推進グループは、その全体戦略をいかに対外的に発信していくかを支援します。正副会長が発表される機会やロビー活動を中心に、製薬協の考えを外に届ける役割です。年末にかけてロビー活動が活発になりますので、委員会と連携しながら政策提言を進めていきます。

安達　事業管理という硬い名前ですが、実際には「企画して、推進して、取りまとめ、次の動きにつなげる」流れの「取りまとめ、次の動きにつなげる」ところを担っています。特に力を入れているのが委員会連携の推進で、委員会同士の連携が必要な案件や、どの委員会が担うのか曖昧になり間に落ちてしまいそうな案件をフォローしています。複数の委員会が同じテーマに取り組んでいるなら、「One JPMA」として1つの方向にまとめていけるよう下支えしたい。各委員会にご負担をかけることもあると思いますが、委員会のみなさんと協力しながら進めるのが我々のミッションです。

発足後の手応え――「熱量」が変わった

―事業戦略本部ができたことで、何が動き始めていますか。

中山　外部環境の変化のスピードはどんどん速くなり、国内では今、創薬に追い風が吹いています。こ



の機を逃すわけにはいきません。これまで以上の機動性が求められる中、政策の意思決定、戦略立案、実行を牽引する「司令塔」になるという意気込みで取り組んでいます。

御内　これまで委員会活動に携わってきた中で、各委員会が非常に良い取り組みを行っていることを実感しています。一方、それぞれの委員会の中だけで完結してしまうと、本来大きな価値を持つ活動であっても、その成果が十分に見えないことがあります。全体戦略のもとでそれらをつなぎ合わせることで、その価値をより多くの国民や患者さんに届けられるはずです。委員会それぞれの力を結集し、より大きな成果につなげていきたいです。

中山　活動の根幹は、3グループが集まる隔週の実務者会議です。90分の予定をオーバーするほど議論が白熱し、会議後もチャットで続きます。メンバーは、中長期戦略、戦略アジェンダ、インテリジェンス、ロビイングなど5つのチームを1～2つ兼務しており、自発的な提案が増え、熱量が明らかに変わってきました。

矢澤　自発的な提案の一つとして、最初に印象に残ったのがインテリジェンスチームの取り組みです。AIを活用したレポートを自ら企画・発信してくれたことで、「新しい動きが始まった」と感じました。各チームでも積極的な動きが見られ、新しい取り組みの提案が次々と出てきています。

安達　大変ではありますが、メンバーのみなさんは、「しんどい」というより「熱い」ですね。課題を1つずつ改善していこう、まずはやってみよう、という意識が芽生えていますね。

見えてきた課題――「説明と納得」の重要性

―― 一方で、見えてきた課題はありますか。

安達　何か事を動かそうというときには、丁寧な説明が必要だと痛感しています。委員会はそれぞれ活動内容も進め方も異なりますが、みなさん真剣に向き合っていらっしゃるからこそ、「なぜやるのか、やるとどうなるのか」を腹落ちしていただくことが欠かせません。動き出せば一気に進めてくださるので、「説明と納得」が何よりも重要だと感じています。

御内　委員会のみなさんは本業と両立しながら献身的に活動されていることに日頃より感謝しています。その一方で、政府からの要請は短期間での対応を求められるものが多く、迅速な対応には各委員会のご協力が不可欠です。そうした状況もご理解いただきながら、ぜひお力を貸していただきたいと思っています。**安達**　「この組織があってよかった」と思っていただけるところまでは、まだきていません。私たち自身、走りながら手探りでやっていますので、みなさんにそう実感していただけるようになることが、これからの目標です。そのためにも、スモールウィンを積み重ねていくしかないと思っています。

―― 直近のマイルストーンは。

矢澤　現在は中長期戦略チームを中心に、2027年度の事業戦略の策定を進めています。正副会長会議や運営会議、各委員会からご意見をいただきながらブラッシュアップし、製薬協全体の戦略を各委員会の計画につなげていきます。

御内　これまでは委員会の計画を積み上げ、ボトムアップで全体をまとめる形で進めてきました。本部から戦略方針を示すのは初めての試みで、正直なところ試行錯誤の連続です。春頃には最終版として取りまとめ、公表できる形にしたいと考えています。

実現したい未来と「型にとらわれない発想」

―― 実現したい未来をお聞かせください。

安達　委員会のみなさんは会社の仕事をしながらの業界活動ですから、どうしても機動性を発揮しきれない面があります。そこで製薬協自体が強くなり、委員会のみなさんと一緒になって動ける体制を作っていきたいと思っています。事業活動で困っていることや改善すべき点を吸い上げ、環境改善につなげていく。その積み重ねによって、産業の足腰を強くしていきたいですね。

矢澤　一社では解決できない課題に、業界全体で向



き合い、変えていく。さまざまな会社や立場の人が知恵やアイデアを持ち寄ることで、新たな価値を生み出せることが、製薬協という業界団体の強みだと考えています。事業戦略本部として、その強みを最大限に引き出し、業界全体で課題解決や新たな価値創出ができる状態を実現することを目指しています。

中山　政府から「医薬品産業を基幹産業にする」というメッセージが示され、成長戦略にもこの分野が位置づけられました。これに応えていかなければいけません。日本経済を牽引しながら、人々の健康とウェルビーイングに貢献し、健康医療安全保障にも寄与する――医薬品産業ならではの基幹産業のロールモデルを示せるはずです。人口減少に向かう日本で、知識集約型で付加価値を出す産業の重要性は、ますます増していくと思います。

御内　そうですね。政府から寄せられている大きな期待をしっかりと受け止め、産業のビジョンを具体的な戦略に落とし込み、実行に移していくことが問われる時期に来ています。この変化を好機ととらえ、製薬協全体を戦略的に前進させる推進力となっていきたいと考えています。



―榊原本部長から「もっと型にとらわれない発想を」というメッセージがあったそうですね。

中山　まだ延長線上の発想から脱却しきれていない、という意味なのかなと受け止めました。日々忙しいと目の前のことに思考が向きがちですが、一度、2040年、2050年にどんな産業界でありたいかを皆で自由に語り合いたいですね。

安達　きれいにまとめようとしているのが見えてしまっているのでしょうね。最初から落としどころを考えるのではなく、もっと自由に、いろいろなアイデアをぶつけてほしい。「どこに飛んでいくかわからない」くらいでいい、ということだと思います。

矢澤　多様な意見をまとめ、一定の方向性を示すことを意識するあまり、発想そのものを狭めていた部分があったのかもしれません。多様な意見があるからこそ、最初から型にはめず、自由に発想する。その方が、これまでにないアイデアが生まれますし、考えること自体ももっと面白くなると改めて感じています。

委員会・会員会社のみなさんへ

―最後に、共創に向けたメッセージをお願いします。

中山　事業戦略本部は20名ほどの組織ですので、専門性は委員会のみなさんの知見をお借りするのが大前提です。みなさんの専門性、知見、経験こそが原動力になります。現場に近いところで臨場感をもって感じておられる課題と想いを共有していただく。それがまさに共創につながるのだと思います。

矢澤　委員会との連携や製薬協内での情報発信を



通じて、お互いの活動や考えへの理解をさらに深めていくことが大切だと考えています。率直なご意見やフィードバックをいただきながら、事業戦略本部も進化し、みなさんとの共創を新たな価値につなげていきたいと思います。

御内　皆が同じ方向を向いて取り組める環境を作ることも、私たちの大切な役割です。各委員会がより良い社会の実現に向けて積み重ねてこられた力は、必ず国民や患者さんへの価値につながります。その力を製薬協全体の成果へと結び付けられるよう、私たちも一緒になって挑戦していきたいと考えています。

中山　変革という言葉は、これまでやってきたことを否定するものではありません。「もっとこうした方がいい」と腹を割って話し、想いを共有しながら進んでいく。それ自体が、振り返れば変革だったね――そう言える組織にしていきたいと思います。

安達　政府の我々に対する期待、だいぶ変わってきていると思います。製薬協としても、その期待にしっかり応えていかなければいけません。前例踏襲ではなく、「これを実現するためにはどうすればよいか」をみなさんと一緒に考え、一緒に動きながら、変革を進めていきたいと思います。

PART 3 | メンバーの想い

事業戦略本部のメンバーに、「これまでのキャリアや専門領域」「本部での役割や大切にしていること」「多様な仲間と働く中で感じる手応えや今後の挑戦」からテーマを選び、それぞれの想いを語っていただきました。



事業戦略本部
戦略企画グループ
木村 豪さん

塩野義製薬株式会社
R&D戦略担当

CMC・製剤研究を基盤に、患者さんが実際に使える製品へつなげる視点で、製品開発、治験薬供給、製造課題、CMC技術開発に取り組んできました。特に、開発初期から市場・患者ニーズ、製造、供給までを見通し、社内外の関係者と合意形成しながら実装することを大切にしてきました。現在は、その経験を産業政策や業界戦略へ広げ、創薬から実用化、国内製造、国際展開までをつなぐ役割に挑戦しています。



事業戦略本部
戦略推進グループ
白神 昇平さん

アステラス製薬株式会社
渉外担当

創薬研究に携わっていた頃は、まさか自分が産業政策の仕事をするとは思ってもいませんでした。転機は2014年の製薬協への出向です。以来、渉外部で産業政策委員会の活動に携わっています。会社もバックグラウンドも違うメンバーで議論すると、いろいろな意見が出て、正直なかなかまとまらないことも多いです。しかし、一度ひとつになったときの力は驚くほど大きいことを、長年の渉外活動の中で身をもって実感してきました。今後は、これまでの経験をもとに、委員会の枠を越えたつながりづくりに取り組み、より多くの声を大きな力に束ねてロビイングを行い、政策に反映させていきたいと思います。

これまで産業政策委員会にて政策提言の策定やその実現に向けた活動にかかわらせていただきました。現在、事業戦略本部の戦略企画グループにて、これまでの「事業方針・事業計画」に代わる新たな「事業戦略」を作っています。試行錯誤しながらも関係する方々のご支援を得て、製薬協のビジョン実現に向けて来年度重点的に取り組むべきことは何かをしっかり議論したいと思います。初めての試みとなりますので、丁寧な説明・合意形成を心がけてまいります。



事業戦略本部
戦略企画グループ
小谷 定治さん

エーザイ株式会社
医療政策担当

住友ファーマ株式会社に入社後、MR、希少疾患の学術担当、製品リード、営業所長と、一貫して営業本部内の業務に従事してきました。それが、この4月、入社31年目にして、青天の霹靂で、初めて営業本部外の部署である「渉外部」に配属となり、製薬協での活動に参画しています。製薬協では、主に事業戦略本部で、一社法人化する製薬協をより良い組織にするべく議論をしています。まだまだ、製薬協での活動歴が浅く、他のメンバーの方に教えを請うことが多いですが、メンバーと共創できるよう、勉強して自分自身を磨き、新しい製薬協に貢献してまいります。



事業戦略本部
戦略推進グループ
倉田 直樹さん

住友ファーマ株式会社
渉外担当



事業戦略本部
戦略企画グループ
仁信 秀英さん

第一三共株式会社
渉外担当

製薬協の活動の強みは、異なる企業や多様なバックグラウンドを持つみなさんと議論を重ねられることにあると感じています。喧々諤々の議論を通じて磨かれた提言こそが、業界としての力強い発信につながると考えています。私は事業戦略本部の中長期戦略、戦略アジェンダ、ロビイングの3つのチームに参画しています。今後も“One JPMA”としてより強い組織を目指し、その先に得られた成果を皆で分かち合いながら、業界の発展と、何よりも患者さんへのさらなる貢献に挑戦していきたいと思います。

事業戦略本部では、製薬企業各社と製薬協事務局のメンバーが協働し、多様な視点に触れながら議論できることが大きな魅力です。企業の枠を超えて業界の発展に尽力する方が多く、日々刺激を受けています。一方で、合議制ゆえに意思決定に時間を要する場面もあります。今後は迅速な意思決定と組織横断的な連携を促進し、業界にとって真に価値のある提案を共創していきたいと考えています。私のミッションは製薬協のアウトプット最大化です。これまで委員会の一体性強化や事業戦略本部の立ち上げに携わってきましたが、今後は事務局機能の強化にも挑戦したいと考えています。



事業戦略本部
事業管理グループ
松尾 隆弘さん

製薬協事務局
（中外製薬株式会社より出向）



事業戦略本部
戦略企画グループ
松田 浩一さん

中外製薬株式会社
渉外担当

薬理研究職として製薬企業に入社後、大学への派遣、社外広報業務、内閣官房健康・医療戦略室への出向を経て渉外部門に所属し、2024年に中外製薬へ入社して以降も一貫して政策渉外活動に従事しています。産学官それぞれの立場で培った経験をもとに、製薬産業政策、創薬イノベーション、人材育成など幅広いテーマにおける業界活動や行政対応を専門としています。事業戦略本部の一員として、これまでの知見とネットワークを活かし、製薬産業が我が国の基幹産業として持続的に発展していくための環境整備と価値創出に貢献していきたいと考えています。